

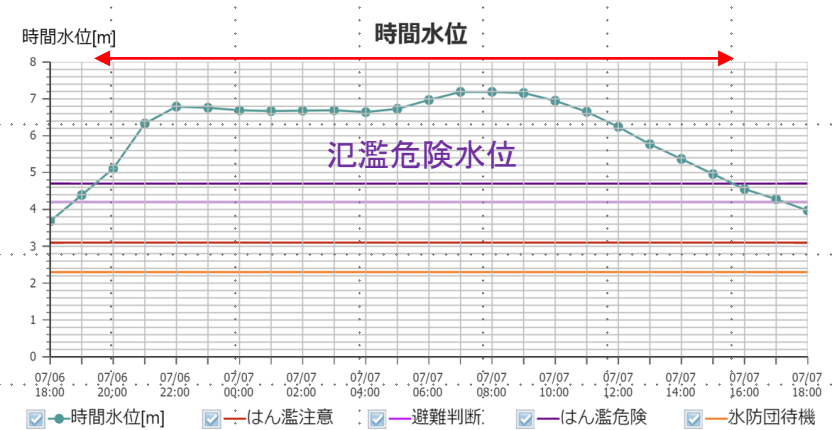
広島における河川災害の特徴

広島大学大学院工学研究科 河原能久

- 広範囲にわたる記録的な降水量，長時間にわたる高い水位
- 一級河川の支川や中小河川において破堤，越水による浸水
- 橋梁および流木の集積による水位の上昇
- 中州の樹木群による水位の上昇
- 本川の水位の上昇に伴う支川の水位上昇
- ダム操作による洪水調整や排水ポンプによる浸水防止の限界

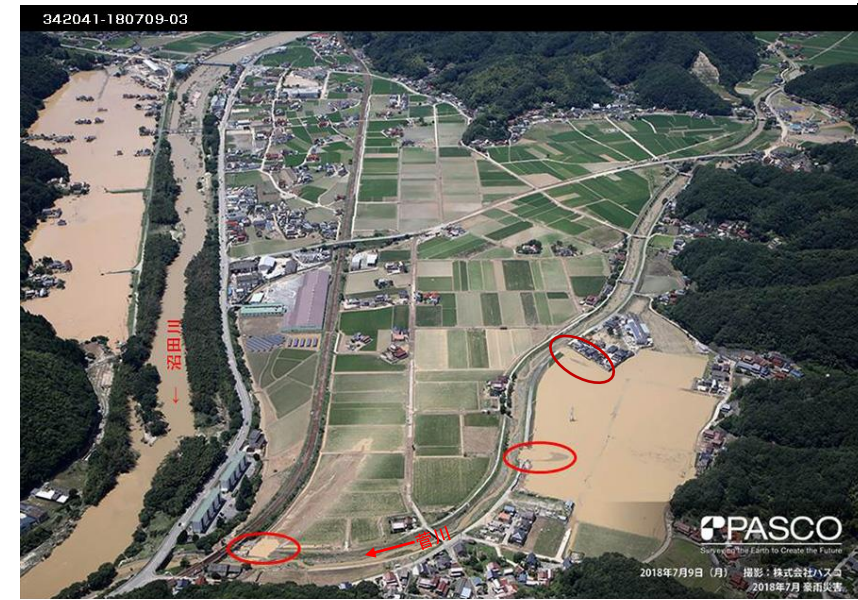


二級河川の氾濫（沼田川船木地区）



船木地点での水位の時間的变化
(出典：広島県防災web)

船木大橋上流部
左岸における越
流と侵食。



河川災害の軽減に関する課題

1. 中小河川の治水安全度を向上させる構造的対策の検討。
ダム操作の見直し, ため池や調整地の活用。
2. 超過洪水(計画高水位を超える洪水)に対する河川構造物の在り方の検討。
橋梁に大きな流体力が作用→橋梁の破損と水位の堰上げ。
3. 堤防の維持管理や河道内の樹木群の管理。
4. 豪雨災害に関するリスクコミュニケーションの促進。
行政と住民, マスコミの間での災害情報の理解度に差違。
5. SNSの災害情報の収集や避難活動への活用。